

「京の旬野菜『畑菜^{はたけな}』販売促進キャンペーン」開催

京都市では市内産の旬の野菜(京の旬野菜)を市民に供給することが、環境にやさしく健康で安全な食生活の推進につながるという趣旨で、「京の旬野菜推奨事業」を実施しており、今回、事業の一環として、旬野菜のひとつである「畑菜」の消費拡大を図ることを目的に、「京の旬野菜『畑菜』販売促進キャンペーン」を実施します。

「畑菜」は、古くから京の冬期の野菜として多く食されてきました。京都では、初午の日に畑菜の辛し和えを食べることが、「おまわり(歳時に決まったおばんざいを食べること)」とされており、その風習を市民に紹介するとともに、「畑菜」の消費拡大を図ることとしました。

- 1 実施日時 平成 18 年 2 月 10 日(金)(初午)
午前 10 時から午後 2 時まで(ただし、試食品がなくなり次第終了)
- 2 内 容 畑菜の産地である伏見区久我の農家が、店頭で畑菜の辛し和えを試食品としてふるまい、畑菜を PR します。
- 3 キャンペーン実施店 ダイエー藤森店(伏見区深草キトロ 82)他
- 4 実施主体 京の旬野菜協会(JA京都市, JA京都中央)
- 5 問合せ先 京都市産業観光局農林振興室農業振興整備課 (Tel222-3352)

初午と畑菜

京都の伏見稻荷大社の初午大祭は、秦(はた)氏が初午の日に伏見山に稻荷大社を祭ったことから始まったとされています。そこで、秦氏の「はた」と畑菜の「はた」をかけて、畑菜と狐の好物である薄揚げを一緒に辛子で和え、この日の食卓に並べるようになったのではないかとされています。